

世界史探究

〔I〕 次の文章を読み、後の問（1～6）に答えよ。

人類は、誕生以来長きにわたって狩猟採集という生業を営んできたが、氷期が終わった後の約9000年前頃から農耕や牧畜を行うようになった。いちはやく農耕へと移行した西アジアの①（ 1 ）地方では、前4000年紀に入ると人口が急激に増え始め、やがて民族系統不明の（ 2 ）により②都市国家が作られた。これらの都市国家では、てっぺんに守護神を祭る神殿を戴く巨大建築である（ 3 ）が建設された。

（ 1 ）地方で都市が生まれた頃、西方のエジプトでは統一国家が建設された。古代エジプトの景観を代表するのが、ユネスコ世界文化遺産に登録された「③（ ）とその墓地遺跡 ギザからダハシュールまでのピラミッド地帯」の中核を成す、ギザに建設された三大④ピラミッド群である。中でも最大の規模を誇るのが古王国時代の⑤王の一人である（ 4 ）が葬られていると考えられているピラミッドである。靈魂不滅を信じていた古代エジプト人は、死者をミイラにして保存し、（ 5 ）と呼ばれる絵文書や多くの副葬品と共に葬った。エジプト人の宗教体系は、太陽神（ 6 ）を中心とする多神教であったが、新王国時代の王アメンヘテプ4世が宗教改革を行った時期に一時的に一神教が広められた。また、新王国時代に、後にユダヤ教で預言者の一人とされる（ 7 ）が、王による過酷な支配に苦しむ（ 8 ）人を率いてエジプトから脱出したとされている。

問1 空欄（ 1 ）～（ 8 ）にあてはまる語句を答えよ。

問2 下線部①について、この地名は「川と川の間」を意味するが、その二つの河川の名称を答えよ。

問3 下線部②について、代表的な都市国家の名称を一つ答えよ。

問4 下線部③について、（ ）は古王国時代の中心地であるが、その名称を答えよ。

問5 下線部④について、エジプトではピラミッド建設は古王国時代より後には廃れるが、その南方の王国で前3世紀頃からピラミッドが建設されるようになる。その王国の名称、及びピラミッドが建設された都の名称を答えよ。

問6 下線部⑤について、古代エジプトでは王はなんと呼ばれていたか答えよ。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、後の問（1～6）に答えよ。

インダス川流域には、紀元前以来さまざまな集団が中央アジア・西アジアからやってきて、宗教や文化の面で影響を与えた。一方、陸路やインド洋を通じてインドの宗教・文化が他の地域に伝播した。

インド古典文化の全盛期を築いた王朝は、4世紀におこった（ 1 ）であった。古典文化期には、①インド固有の宗教であるヒンドゥー教が隆盛し、サンスクリット語による文学が確立した。一方で、②仏教も栄え、僧院・寺院が建設され、仏教美術も発達した。また、数学・天文学も発達し、インドで確立された（ 2 ）はイスラム圏を経てヨーロッパにも影響を与えた。

（ 1 ）は、5世紀後半には遊牧民の侵入により弱体化した。（ 1 ）の滅亡後、ヴァルダナ朝が北インドを統一したが7世紀半ばに滅亡し、③8世紀以降は小国家が分立する状態となり、この状態が13世紀まで続いた。

一方、南インドには、海洋交易で発展を遂げた国家が現れた。デカン高原のサータヴァーハナ朝は、2世紀にはインド亜大陸東西両岸に支配を及ぼし、海洋交易に参入した。④上座部仏教が伝わり仏教の地となっていたスリランカも、4世紀ごろにモンスーン航海がベンガル湾・南シナ海でも行われるようになると、海洋交易の中心地として発展した。10世紀になると、南インドで有力となった（ 3 ）はスリランカを支配するとともに東南アジアのマラッカ海峡にまで軍を派遣した。

こうした海洋交易は、東南アジアにインド文化をもたらした。例えば、6世紀にはメコン川中流域にカンボジア（真臘）がおこり、ヒンドゥー教や仏教の影響を受けつつ、12世紀には独自の建築様式を持つ（ 4 ）を作った。また、⑤東南アジア大陸部・島

嶼部の諸国家は、中国の影響を受けつつ、南シナ海・インド洋を舞台とする海洋交易により発展した。

問1 空欄（ 1 ）～（ 4 ）にあてはまる語句をそれぞれの【語群】から選び、記号で答えよ。

空欄 【語群】

- | | | | | | | |
|-------|---|------------|---|------------|---|-------|
| （ 1 ） | ア | グプタ朝 | イ | クシャーナ朝 | ウ | マウリヤ朝 |
| （ 2 ） | ア | 六十進法 | イ | ゼロの概念 | ウ | 地動説 |
| （ 3 ） | ア | ヴィジャヤナガル王国 | イ | バーンディヤ朝 | ウ | チョーラ朝 |
| （ 4 ） | ア | ボロブドゥール | イ | アンコール=ワット | | |
| | | | ウ | アジャンター石窟寺院 | | |

問2 下線部①について、ヒンドゥー教およびサンスクリット文学に関する次のア～エのうち、誤っているものを一つ選び、記号で答えよ。

- ア 古くからの伝承をまとめた『マハーバーラタ』『ラーマヤナ』がヒンドゥー教の聖典となった。
- イ ヒンドゥー教は、破壊と創造の神であるシヴァ神と、世界維持の神であるヴィシュヌ神などを主神とする。
- ウ 各ヴァルナの義務や規範は、『マヌ法典』に体系的に記された。
- エ サンスクリット語の戯曲として、『リグ=ヴェーダ』が著された。

問3 下線部②について、この時代の仏教について述べた次の文の下線部aとbの正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

5世紀に_aナーランダー僧院が建てられ、教学の中心となった。また、この時代には_bガンダーラ様式の壁画や彫像が作成されるようになった。

- | | | | | | |
|---|-----|-----|---|-----|-----|
| ア | a—正 | b—正 | イ | a—正 | b—誤 |
| ウ | a—誤 | b—正 | エ | a—誤 | b—誤 |

問4 下線部③について、これら小国家の君主に「王の子」を名乗る者が多かったことにちなんで、この時代をなんというか答えよ。

問5 下線部④について、上座部仏教とは、前1世紀ごろの仏教改革であらわれた大乘仏教の側から「小乗」と呼ばれ、その保守性を批判された一派である。この大乘仏教と上座部仏教の違いを50字以内で説明せよ。

問6 下線部⑤について、大陸部・島嶼部の諸国家と中国・インドとの関係に関する次のア～エのうち、誤っているものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 前2世紀ごろ、漢は武帝の時代にベトナムに安南都護府を置いて南海交易の窓口とし、広州に設けた市舶司が交易を管理した。

イ 1世紀から2世紀にかけて、メコン川下流には扶南が、ベトナム中部にはチャンパー（林邑）がおこり、ともに交易で栄えた。

ウ 7世紀ごろにスマトラ島におこったシュリーヴィジャヤは、マラッカ海峡を管理し海洋交易で栄えた。

エ 8世紀中ごろ、ジャワ島には大乘仏教のシャイレンドラ朝がおこり、マレー半島にまで支配を及ぼした。

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、後の問（1～4）に答えよ。

フランスでは、ドイツで始まった宗教改革を受けて生じた宗教戦争である①（ 1 ）のさなかに国王（ 2 ）3世が暗殺されると、（ 3 ）朝が断絶した。これを受けて即位したのが、987年に始まる（ 4 ）朝の第9代国王（ 5 ）9世にまで遡る家系である（ 6 ）朝の（ 2 ）4世である。彼は1598年に（ 7 ）を發布して40年近く続いた（ 1 ）を終わらせた。

次代の（ 5 ）13世の治世には、宰相に（ 8 ）が登用され、中央集権化が推進された。続いて（ 5 ）14世が幼くして即位すると、宰相（ 9 ）が実権を握

り、②その政策に反発して貴族らが起こした内乱を鎮圧した。彼の死後親政を始めた（ 5 ）14世は、王権神授説を唱えてフランスに絶対王政を確立した。経済面では③（ 10 ）を起用し、フランス絶対王政を経済的に支える基盤の確立を図った。

問1 空欄（ 1 ）～（ 10 ）にあてはまる語句を答えよ。

問2 下線部①について、この戦争の最中、多くの新教徒が虐殺される事件が起こるが、その地名を答えよ。

問3 下線部②について、この内乱の名称を答えよ。

問4 下線部③について、この人物が行った経済政策は、彼の名にちなんで（ 10 ）主義と呼ばれることもあるが、16世紀から18世紀にかけてヨーロッパの絶対主義諸国が行った統制的経済政策の名称を答えよ。

〔Ⅳ〕 次の文章を読み、後の問（1～8）に答えよ。

17世紀おわりから18世紀にかけて最盛期を築いた清は、19世紀に入ると、①国内の反乱に加え、対外関係でも問題を抱えることになった。清は当初、西洋との貿易港を（ 1 ）のみに限定していたが、これに対してイギリスは貿易の条件をめぐって交渉を行った。この交渉が不調に終わると、イギリスはインド産の（ 2 ）を中国に密輸するようになった。この密貿易により国外へ銀が流出し、清は財政危機におちいった。（ 2 ）の取り締まりを強めた清に対し、イギリスは艦隊を派遣し、1840年に（ 2 ）戦争がおこった。この戦争はイギリスの勝利に終わり、1842年には②南京条約が結ばれた。しかし、イギリスの対中国貿易は伸び悩み、状況を打開しようとしたイギリスは1856年、フランスとともに清に軍隊を派遣し、（ 1 ）を占領して天津にせまった。これが第2次（ 2 ）戦争である。最終的に、1860年に英仏と清との間で（ 3 ）条約が結ばれ、（ 3 ）に外国公使が常駐することなどが定められた。清は

翌年、③諸外国の公使に対応するための機関を設置した。また、④17世紀から18世紀にかけて清はロシアとの間で国境・通商に関する条約を結んでいたが、第2次（ 2 ）戦争に乗じてロシアは1858年に清と（ 4 ）条約を結び、続けて1860年にはロシアと清との間でも（ 3 ）条約が結ばれた。この結果、ロシアは黒竜江以北および沿海州を獲得し、⑤沿海州に軍港を築いた。また、新疆方面でムスリムの反乱がおきると、ロシアはこれに乗じて（ 5 ）地方を占領した。最終的に1881年に（ 5 ）条約が結ばれ、ロシアは（ 5 ）地方の大半を清に返還したが、その見返りに通商上の権益を獲得した。

一方、国内では清に対する反乱がおこった。（ 6 ）はキリスト教の影響を受けた上帝会を結成し、1851年に太平天国をたてた。清の中央軍は反乱平定に苦慮したが、⑥地方の有力者が結成した郷勇と呼ばれる義勇軍の活動もあり、1864年に太平天国は滅んだ。太平天国以外にも清に反旗をひるがえす勢力が各地に現れ、多くの地域が荒廃した。

諸反乱が鎮圧されると、同治帝の母である（ 7 ）が朝廷の実権を握った。彼女のもと、反乱平定にあたった官僚を中心に、兵器工場や紡績工場を建設し、電信網を整備し、西洋の学術書・技術書を翻訳出版するなど、西洋の近代技術の導入が進められた。これを（ 8 ）運動という。しかし、（ 8 ）運動はあくまで清の政治体制を維持することを前提として進められた。また、⑦日清戦争に敗北すると運動の限界が指摘されるようになり、清の体制改革や、清そのものの打倒を目指す動きが見られるようになるのであった。

問1 空欄（ 1 ）～（ 8 ）にあてはまる語句を答えよ。

問2 下線部①について、四川・湖北の山岳部の移住民を中心として1796年に起こった宗教反乱をなんというか答えよ。

問3 下線部②について、南京条約および翌年の虎門寨追加条約で定められた内容に関する次のア～エのうち、誤っているものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 清はイギリスに対して上海などの5つの港を開いた。

イ 香港島がイギリスに割譲された。

ウ 協定関税制度が定められ、清の関税率は外国との協定で定めることとなった。

エ イギリス・清双方に最恵国待遇が認められた。

問4 下線部③について、この機関をなんというか答えよ。

問5 下線部④について、この時期の清・ロシア間の条約について述べた次の文の下線部aとbの正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

1689年に_aネルチンスク条約を結んで、アルゲン川と外興安嶺を国境として定めた。1727年には_bキャフタ条約を結び、モンゴル北部における国境線を画定した。

ア a—正 b—正 イ a—正 b—誤

ウ a—誤 b—正 エ a—誤 b—誤

問6 下線部⑤について、この軍港の名前を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア ハバロフスク イ ウラジヴォストーク ウ 大連 エ 旅順

問7 下線部⑥について、郷勇について述べた次の文の下線部aとbの正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

_a曾國藩は湖南で湘軍を結成し、_b李鴻章は安徽で淮軍を結成した。二人はその後、清朝政府内で重要な地位についた。

ア a—正 b—正 イ a—正 b—誤

ウ a—誤 b—正 エ a—誤 b—誤

問 8 下線部⑦について、日清戦争に至る時期の清とアジア諸国との関係に関する次のア～エを、年代順に並べ替え、記号で答えよ。

ア 琉球の日清両属状態を解消するために、日本は沖縄県を設置した。

イ 台湾に漂着した宮古島民が殺害されたことをきっかけに、日本は台湾出兵を行った。

ウ 朝鮮で全瑋準らを指導者として、甲午農民戦争がおこった。

エ 朝鮮で甲申政変がおこり、金玉均が閔氏政権打倒を図ったが、失敗した。